

“ちはやあかさか” まちづくり村民会議からの提言（概要）

1 むらの将来像

- ・村には、楠木正成や金剛山（こごせ）をはじめとした豊かな歴史、自然があります。また、みんなが参加する祭り等も多く、さらに、子育てや教育にも目が行き届き、地域のコミュニティが息づいています。
- ・しかし、少子・高齢化が進み財政状況も厳しい中で、合併協議も2度破綻し、今まさに将来の村のあり方が問われています。
- ・今後は、村を大切に守り、良いところを生かし、磨き、村民同士や村外の人とを結び、人口や財政の課題をのりこえ、自信と誇りを持って自立できる村づくりを、村民と行政が手を携えて進めていきたいと考えています。
- ・私たちは、こんなむらづくりをめざしたいと思います。

○人づくり、ものづくりの村

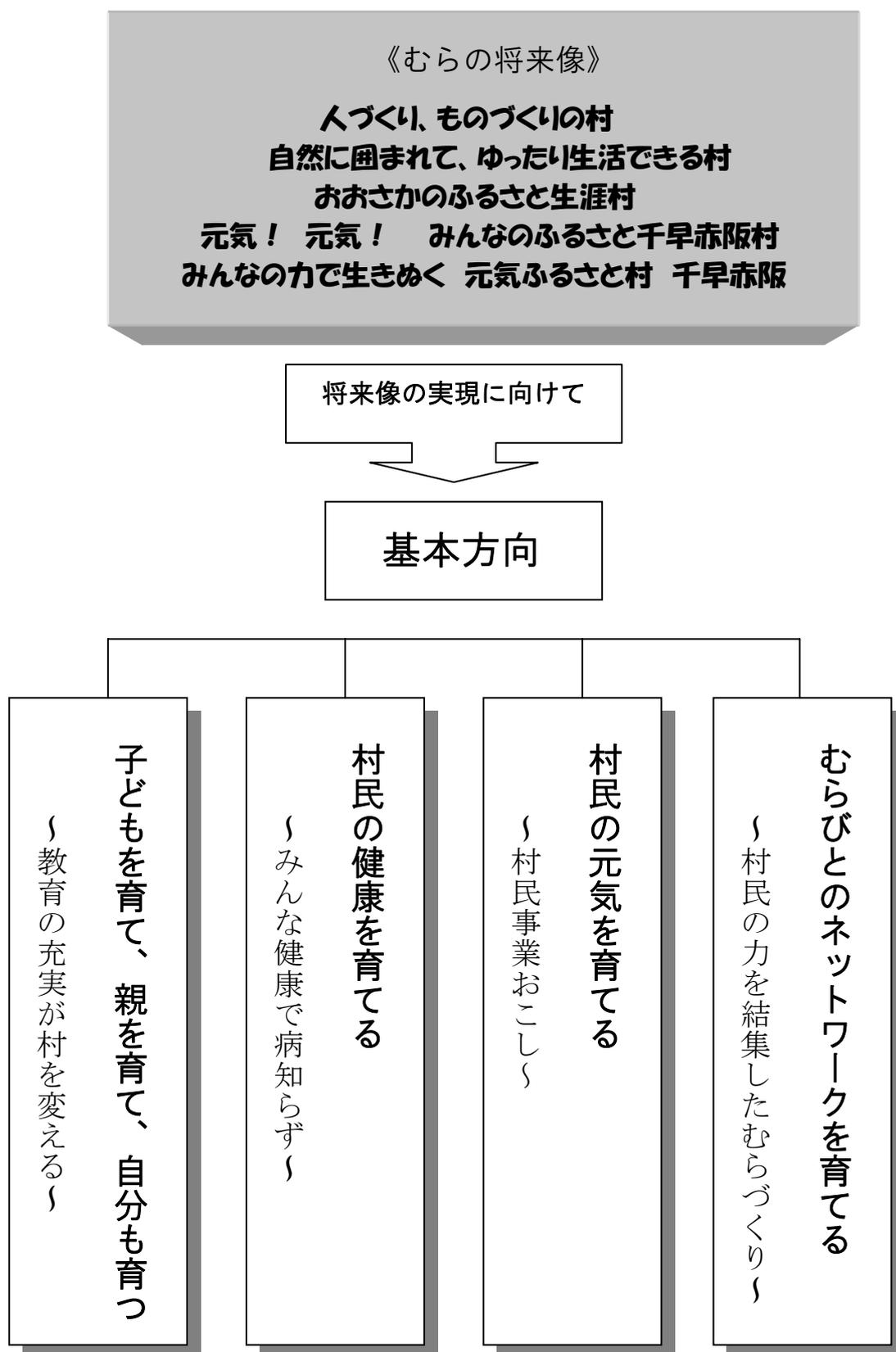
○自然に囲まれて、ゆったい生活できる村

○おおさかのふるさと生涯村

○元気！元気！みんなのふるさと千早赤阪村

○みんなの力で生きぬく 元気ふるさと村 千早赤阪

2 将来像の実現に向けて



その1 子どもを育て、親を育て、自分も育つ

～教育の充実が村を変える～

村の現状は？ このままではどうなる？

- おじいちゃん、おばあちゃん、おねえちゃん、おにいちゃんみんなで子育てに参加しています。
- 子どもたちの学習態度が非常に良く、「教育の村」として発展してきています。
- 少人数で先生が目が届きやすく、徒歩通学で、幼稚園、保育園、小学校のころ頃から、しつけの良い中学生を育てています。
- 中学校の部活動が大変活発で、高校に入っても全国レベルの優秀な選手を輩出しています。
- 山村留学の受け入れの経験があります。
- ▲子どもの人数が減少し、地域に活気がない状況です。
- ▲保育園・学童保育の場所が遠く、子育てしにくい状況です。
- ▲子ども会活動等に対する保護者の関心が減っています。
- ▲ITの普及により、便利にはなったが、人々の考える力が低下する傾向にあります。

方 針

- ◇「人」は村の宝であることを認識し、千早赤阪村の自然や歴史を生かした教育で人々の心を耕し、優秀で元気のある人材を生み育てましょう。
 - ◇村をこうした教育の村として地域内外にPRし、子育て世代が村に移住しやすい環境を作り、村の宝を増やしていきましょう。
 - ◇村のことを学び、それらを語りついでいける人を育てましょう。
 - ◇地域の教育力※を生かし、すべての村民が学習機会を共有し、共に育つ環境を作り出しましょう。
- ※「地域の教育力」とは 自然環境や歴史環境、人と人とのつながりによって教育にもたらされる効果をいう。

具体的には？

- ・教育方針を**村の特色**を生かしたものとして成熟させる。
- ・基本的な学ぶ力をつけるため、**読書の習慣、そろばん、あいさつ運動**など家庭や地域で**出来ることから**始める。
- ・幼小中一貫校を目標とし、少人数で目の行き届いた**一貫した教育**を進めていく。
- ・地域の行事を通して、**世代間の絆**を深める。
- ・既存施設を活用した**村民大学**を開講し、村について学ぶとともに、これからの村の人づくりのための**多様なアイデア**を生み出す箱づくり。
- ・村の子どもたちだけでなく、環境学習教室などを通して、村外の子供たちへ村の魅力を伝えることにより、村民の**アイデンティティ**を生み出す。
- ・人を育てることによって**自分も育つ**。



その2 村民の健康を育てる

～みんな健康で病知らず～

村の現状は？ このままではどうなる？

- 金剛山が身近にあるおかげで、健脚な人が多く、子どもたちの体力や身体能力も他市町より優れていると言われてています。
- 高齢者と言われる年齢層の人が元気に活躍しています。
- 温かな人が多く、助け合いの精神が根づいています。
- 運動会では皆自分の地区を応援して、とても盛り上がります。
- ▲村の高齢化は大阪府内の平均よりも上回っており、60歳以上の村外への転出もみられません。
- ▲排他的、閉鎖的な一面もあります。

方 針

- ◇一人ひとりが健康づくりを心がけましょう。
- ◇村民の心のよりどころである金剛山を生かした健康づくりを進めましょう。
- ◇高齢になっても、家族や地域の助け合いのもとで、安心して楽しく暮らしていける村をめざしましょう。

具体的には？

- ・ **あいさつ運動**と**朝ごはん運動**。
- ・ 金剛山へ登って**目と心と体を鍛える**。
- ・ サイクリングコースの設定（3 km、5 km、10 km）など体力や年齢によって選べる**サイクリングモデルコース**を設定し、村民や来訪者へ利用を呼びかける。
- ・ **健康ちはやあかさか21**のPRと実践。
- ・ 独り暮らしの高齢者への配食サービスなど村の取り組みをもっとPRして**みんなが住みやすい村**を印象づける。
- ・ **歴史探訪**とセットになった健康づくり。

7つの分野とスローガン	
1. 栄養・食生活	ち 地域の野菜をつくて、バランスよー食べよ！
2. 身体活動・運動	は 始めよか、みんな健康ストレッチ
3. 休養・こころの健康	や やってみよ、みんなとふれあい元気な村に
4. たばこ	あ あかんでー、たばこは自分とまわりに害がある
5. アルコール	か 考えて飲みや！自分だけのからだやないで
6. 歯の健康	さ さあさ、みんな歯みがきしましょ
7. 健康チェック	か 必ず受けよな、健康診査 勝手にしいなや、自己診断

その3 村民の元気を育てる

～村民事業おこし～

村の現状は？ このままではどうなる？

- 豊富な農地があり、農作物が豊かに育つ環境があります。
- 農業を大切にし、千早赤阪村特産農産物のブランド化に意欲を持つ人材がいます。
- 活用できる遊休農地や公共施設があります。
- 本気で村の収入を増やすことに取り組む必要があります。村には資源が豊かだから活かせるはずだと考えます。
- ▲現在でも、村の基幹産業は農業であるが、「業（生業）」とはいえない状況にあります。→ 500万円／年の農産物を生産することは難しい（収入の上がらない農業）。
- ▲千早赤阪村の農業はこのままでは10年もたないと考えます。
- ▲大型のスーパーマーケットの進出により、千早赤阪の直売所が影響を受ける可能性があります。

方 針

- ◇恵まれた自然資源、歴史資源を活用し、村民が元気になれるよう、活性化策に官民が協働して取り組みましょう。
- ◇豊富な農地と農作物を生かし、魅力ある村の特産物を作り、販売機能を強化し、交流人口を増やして村の活性化に励みましょう。
- ◇現在ある施設を生かし、新たな観光の拠点として整備していきましょう。
- ◇既存施設（道の駅・農産物直売所・自然休養村管理センター）の連携を図りましょう。
- ◇新規就農者を希望する人たちに、支援する制度を整え、空き家を活用した住環境を提供するなどして、若い世代の定住を図りましょう。

具体的には？

- ・集客のための実践的**PR**、詳細な情報提供、村の総合的な情報発信を民が担うことにより、スピードや質の向上をめざす。
- ・金剛山の集客力を生かし、金剛山入山料徴収など、**雇用の創出**や**村の収入**となるような方策を実践する。その**財源**を生かし、さらに村の活性化をパワーアップさせる。
- ・村の基幹産業である農業を守り育てるため、新規就農支援ネットワーク、**新規就農者支援制度**をつくり**担い手**を育てる。
- ・再活性化のための拠点づくり、**手づくり村**づくり。
- ・温浴施設（金剛の湯）で金剛山の観光の**拠点づくり**。
- ・（仮称）**ちはやあかさか村あそ歩 ウォークラリー・ツアー**など**イベントの企画**。
棚田祭 ライトアップなどの工夫や農業祭との連携。
- ・**観光ガイド**（ボランティアはだめ）の育成と組織化。
- ・やわらかなイベントで**日常的に人が訪れる村**づくり。
- ・道の駅や直売所などの機能連携を図り、村に**回遊性**を持たせて、来訪者にとって魅力ある村巡りを創出する。
- ・**空き家バンク制度**を創設し、「大学」との連携により学生の下宿として貸し出す。
- ・恵まれた自然環境を生かした「**自然エネルギー公園**」を作り、大阪府内の子どもたちやファミリー層の学習機会を提供し、村に人を集める。
- ・**里山を活用**した特産品づくりや集客。
- ・村の特産品を集めた**お弁当づくり**。（金剛山登山者などへの販売。）

その4 むらびとのネットワークを育てる

～村民の力を結集したむらづくり～

村の現状は？ このままではどうなる？

- ▲少子高齢化・財政の悪化でこのままでは住めない村になってしまうのではないかと不安がつきまといます。
- ▲個々に頑張っている人はいるが、バラバラに活動しているので、村全体の取り組みになっていません。
- ▲行政に元気がない。異動等があるので継続的に村づくりに取り組める体制になっていません。
- ▲村のHPも更新がなく、来村しても遊べない、面白くない村とされています。

方 針

- ◇村づくりの行動の中心は村民自らが担いましょう。そのためには、個々に活動するのではなく、連携を密にして大きな力を発揮できる仕組みづくりに取り組みましょう。
- ◇行政は、行政組織の充実を図り、むらづくりを継続的に考える担当班を設置し、村民とともに村づくりに邁進していきましょう。
- ◇村づくりの主体は村民であり、行政は村外に向けてのPRや村民の活動について支援と調整機能を十分に発揮し、PPP※の考え方で村民と行政が両輪となって進めましょう。
 - ※「PPP (Public-Private Partnership)」とは、官と民がパートナーを組んで事業を行うという、新しい官民協力の形態。事業の企画段階から民間事業者が参加するなど、より幅広い範囲を民間に任せる手法。
- ◇今回の提言についても、実行するためにはさまざまな課題を一つひとつ乗り越えて前進していかなくてはなりません。そのためには村民パワーを全開にして、それぞれが役割を担いながら、村の明日のために寄与していきましょう。

具体的には？

- ・ 「人とグループ」を集め、「交流」をつくり、「情報」を入手・整理・発信し、人の流れを作って、村おこしに取り組む。
- ・ 村民から動き、「農」「林」「水産」「工芸」の創造的息吹を創り出すことを目的とした村民組織「**手づくり村民ネットワーク**」を設立する。
- ・ 10年以内に実現する行動提起。
- ・ 情報発信や新規就農者支援、都市居住者の受け入れやイベントを行う受け皿となる**組織**をつくる。
- ・ 元村民の中高齢層への「**帰ってこい運動**」。
- ・ (仮称)「**むらづくり班** (または課)」の設置。